

大気汚染医療費助成制度の患者データ年度推移

令和 2 年度から令和 6 年度までの 5 年間の患者データについて、各項目別に認定年度毎の集計結果を比較した。

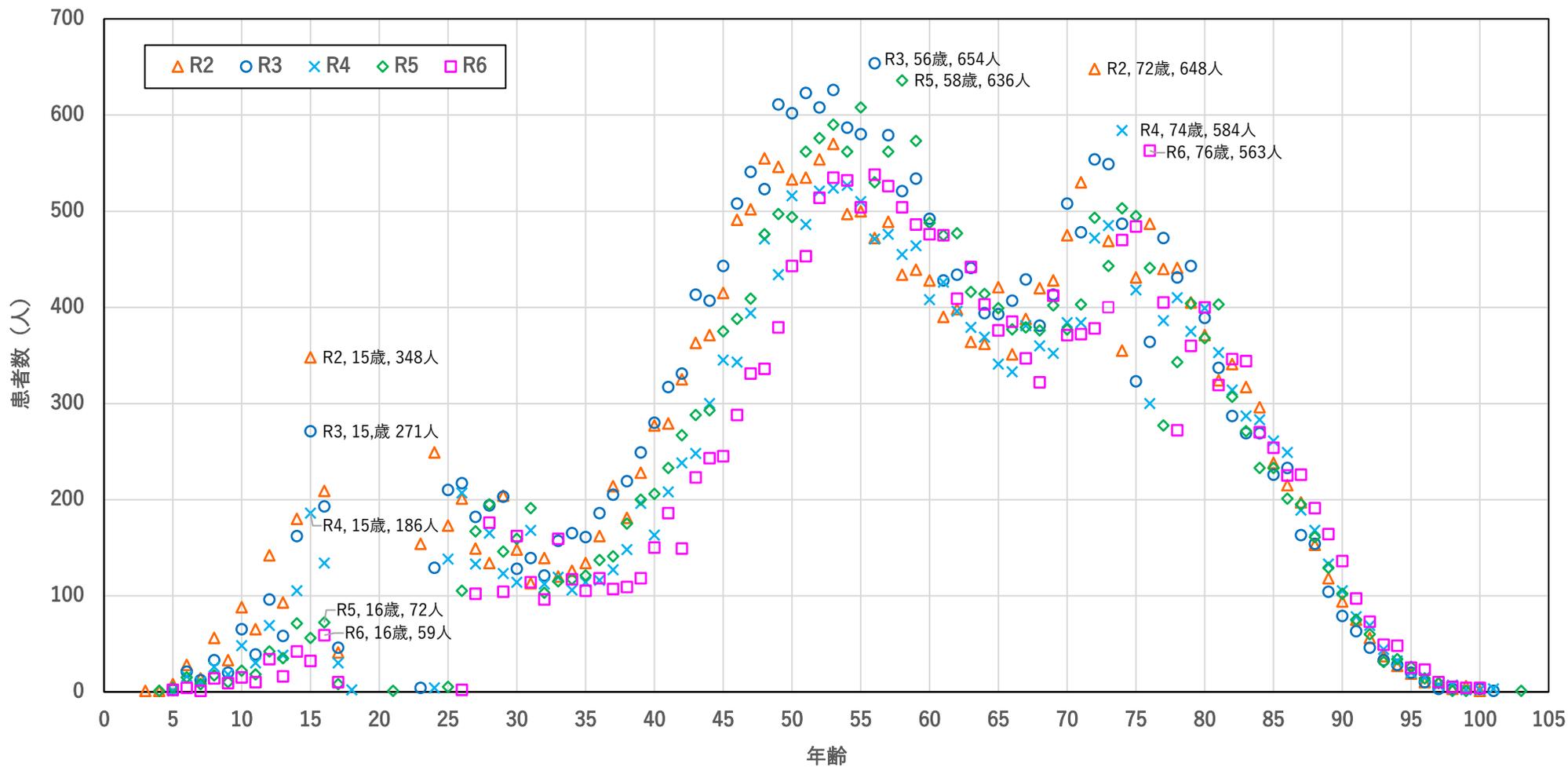
【集計資料】

- ・主治医診療報告書（認定年度毎に集計）
- ・健康・生活環境に関する質問票（認定年度毎に集計）

1 年齢分布

(1) 各年齢の年度別患者数

50歳代、70歳代前半の二峰性である。18歳未満は年々減少し、18歳以上は年々右方向へ移動している。



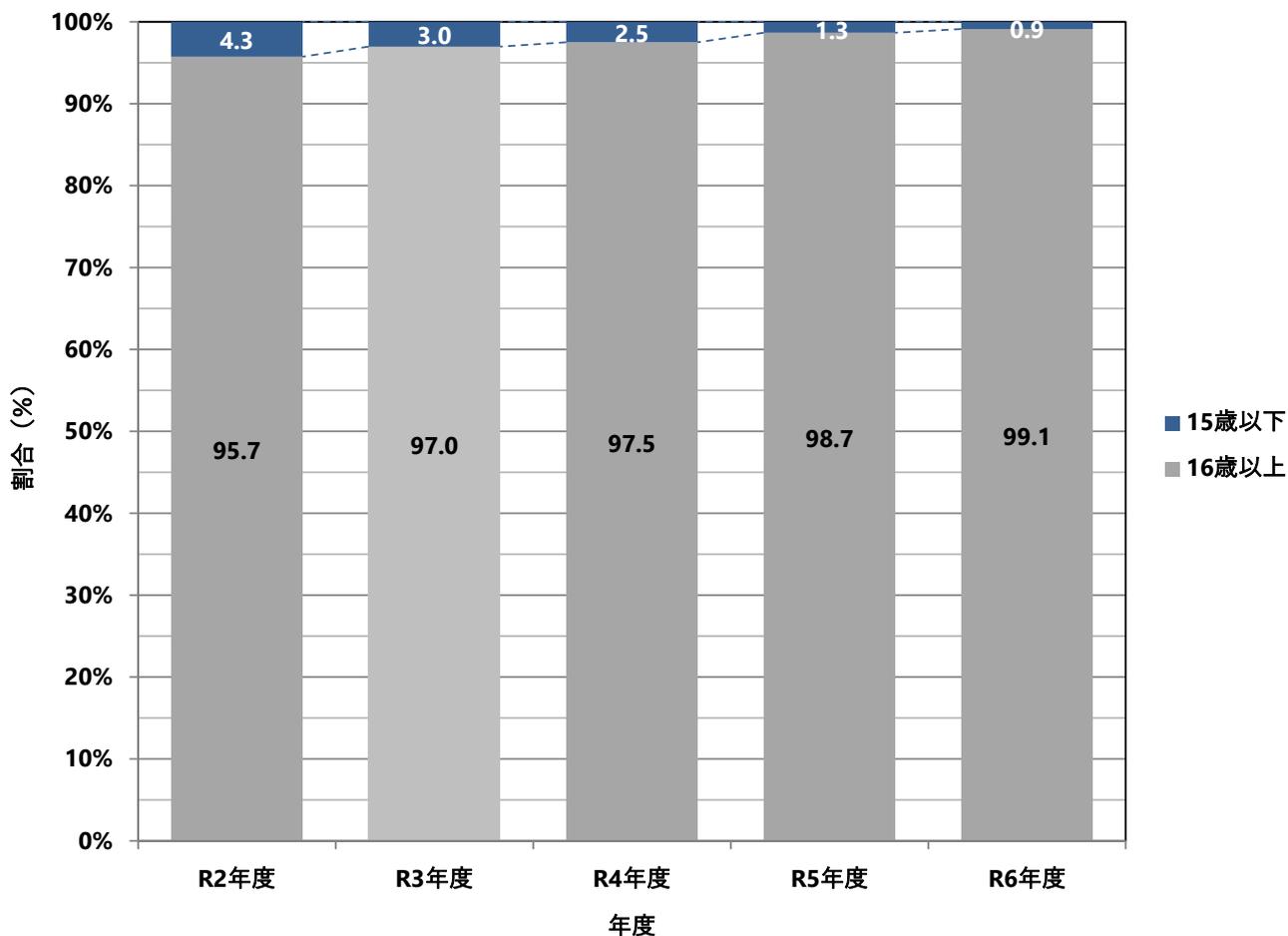
年度別年齢分布

(2) 年度別の年齢階級別患者数割合

全体に占める0歳から39歳までの患者の割合は令和2年度16.7%から令和6年度8.9%へと減少傾向にある。

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	患者数	割合								
0-1歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
2-5歳	10	0.0%	2	0.0%	1	0.0%	5	0.0%	2	0.0%
6-11歳	284	1.1%	190	0.7%	148	0.7%	90	0.4%	53	0.3%
12-15歳	763	3.1%	587	2.3%	398	1.8%	204	0.9%	124	0.6%
16-19歳	250	1.0%	239	0.9%	166	0.8%	80	0.4%	69	0.3%
20-39歳	2,829	11.4%	2,869	11.2%	2,090	9.6%	2,078	9.1%	1,589	7.7%
40-59歳	9,147	36.9%	10,288	40.0%	8,094	37.0%	9,125	40.0%	7,565	36.5%
60-74歳	6,427	25.9%	6,788	26.4%	6,054	27.7%	6,422	28.1%	6,038	29.1%
75歳以上	5,112	20.6%	4,753	18.5%	4,909	22.5%	4,815	21.1%	5,297	25.5%
総計	24,822		25,716		21,860		22,819		20,737	

全体に占める15歳以下の患者の割合は、令和2年度4.3%から令和6年度0.9%へと減少傾向にある。



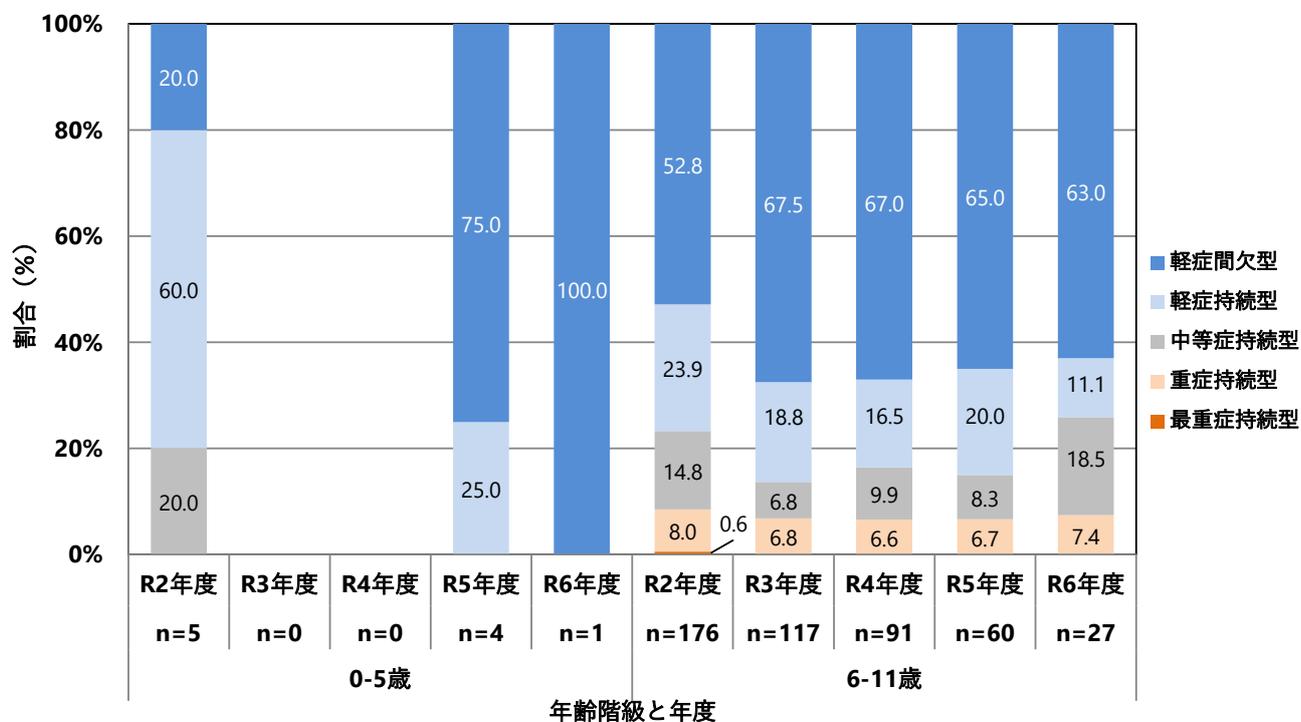
年齢2階級別・年度別患者数

2 重症度分類

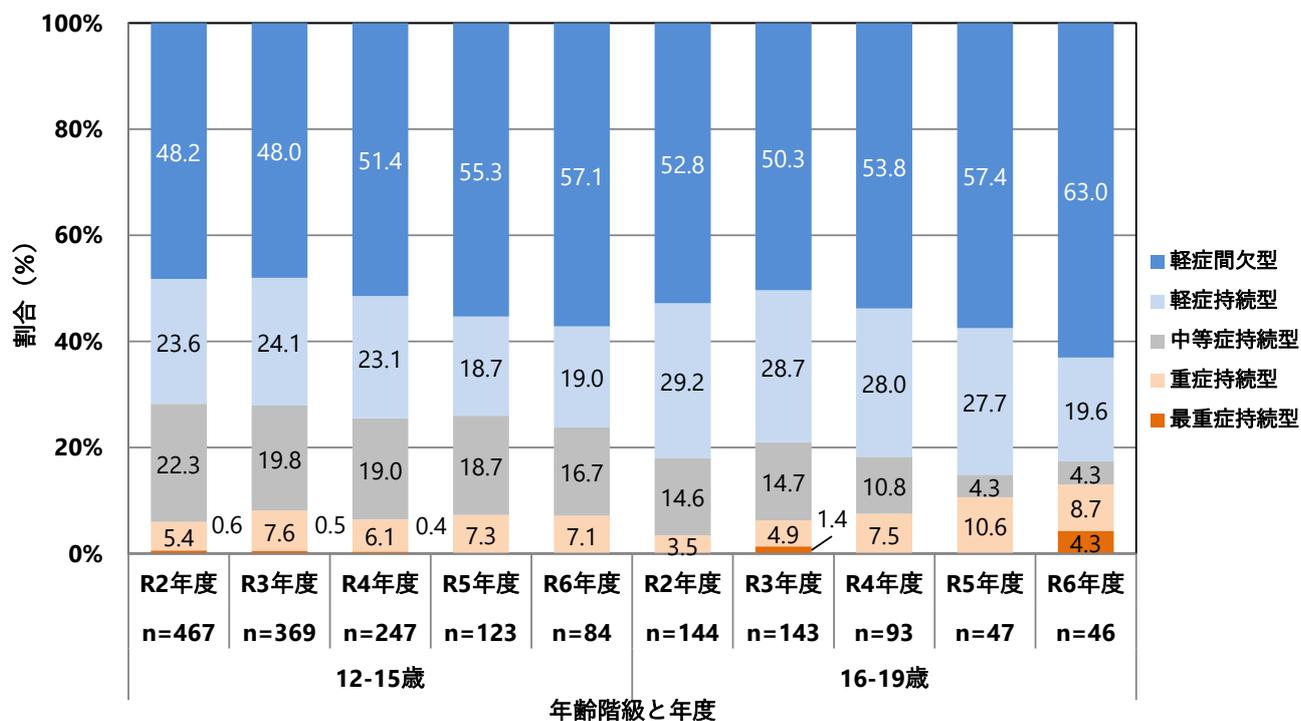
年度別年齢階級別の重症度分布の年度推移は、下図のとおりである。

(1) 年齢階級別<男性>

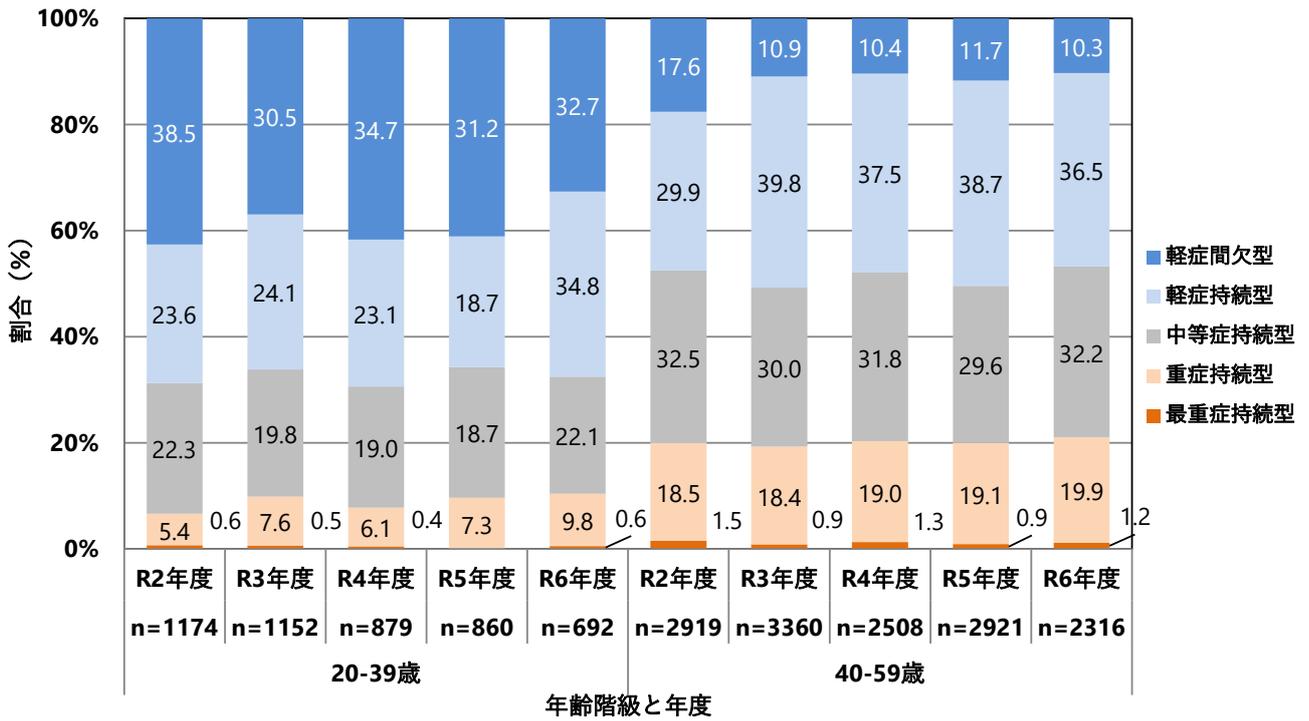
<男性>



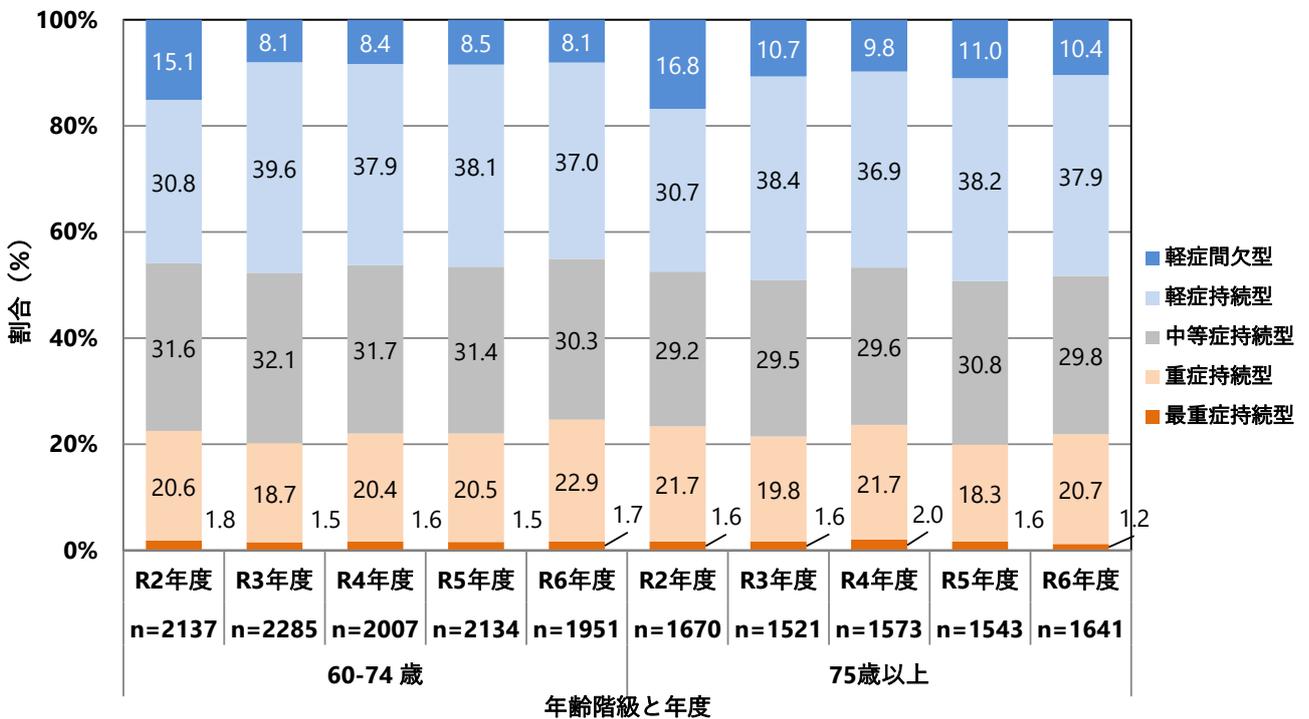
<男性>



<男性>

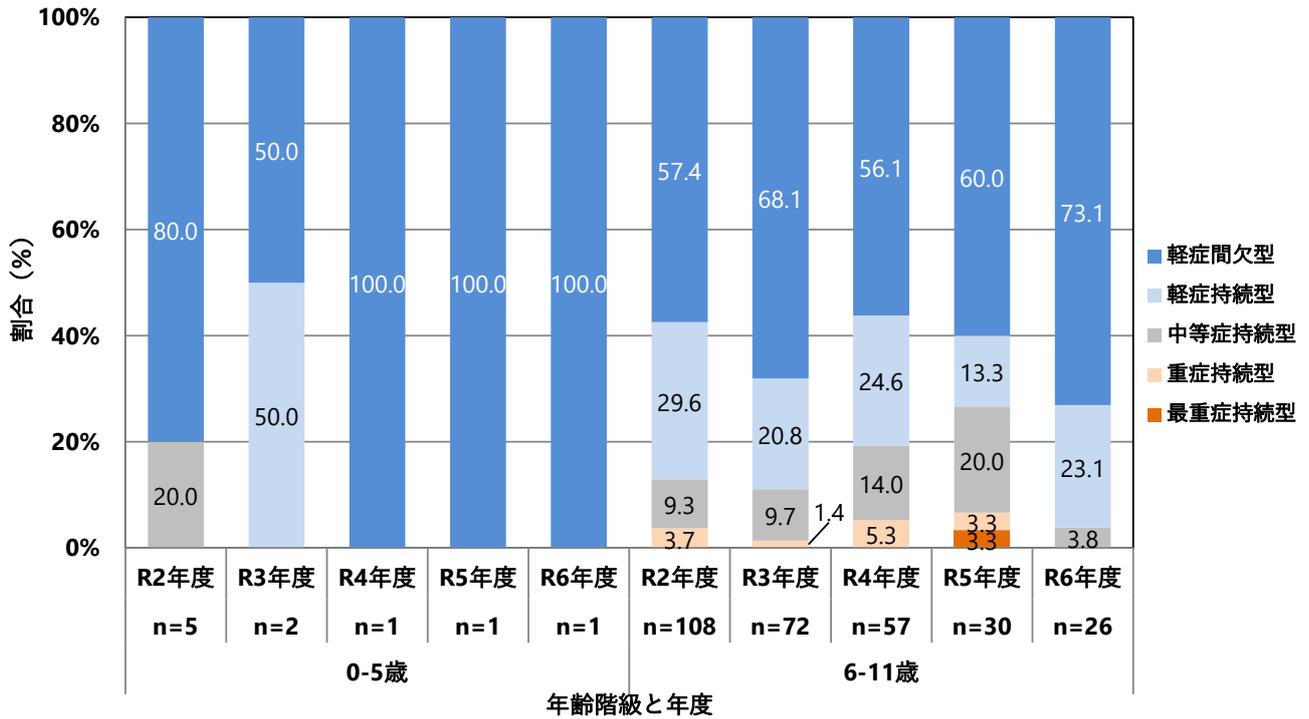


<男性>

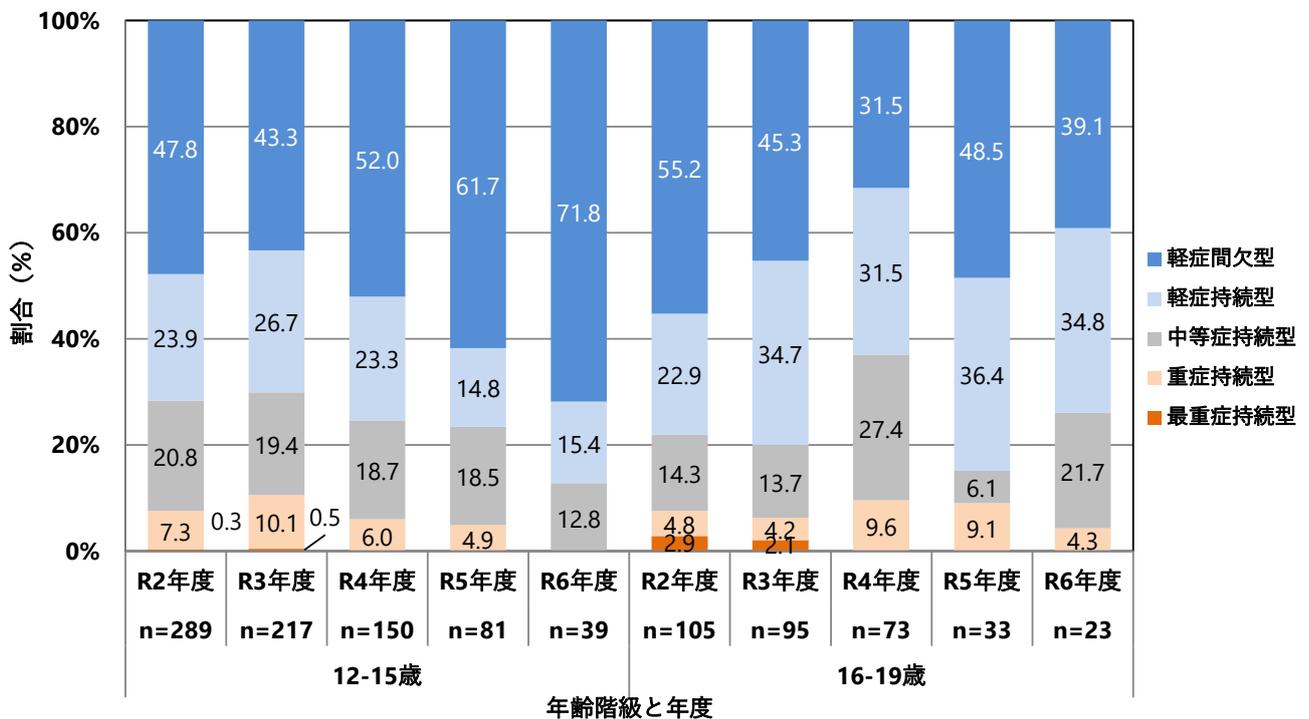


(2) 年齢階級別 <女性>

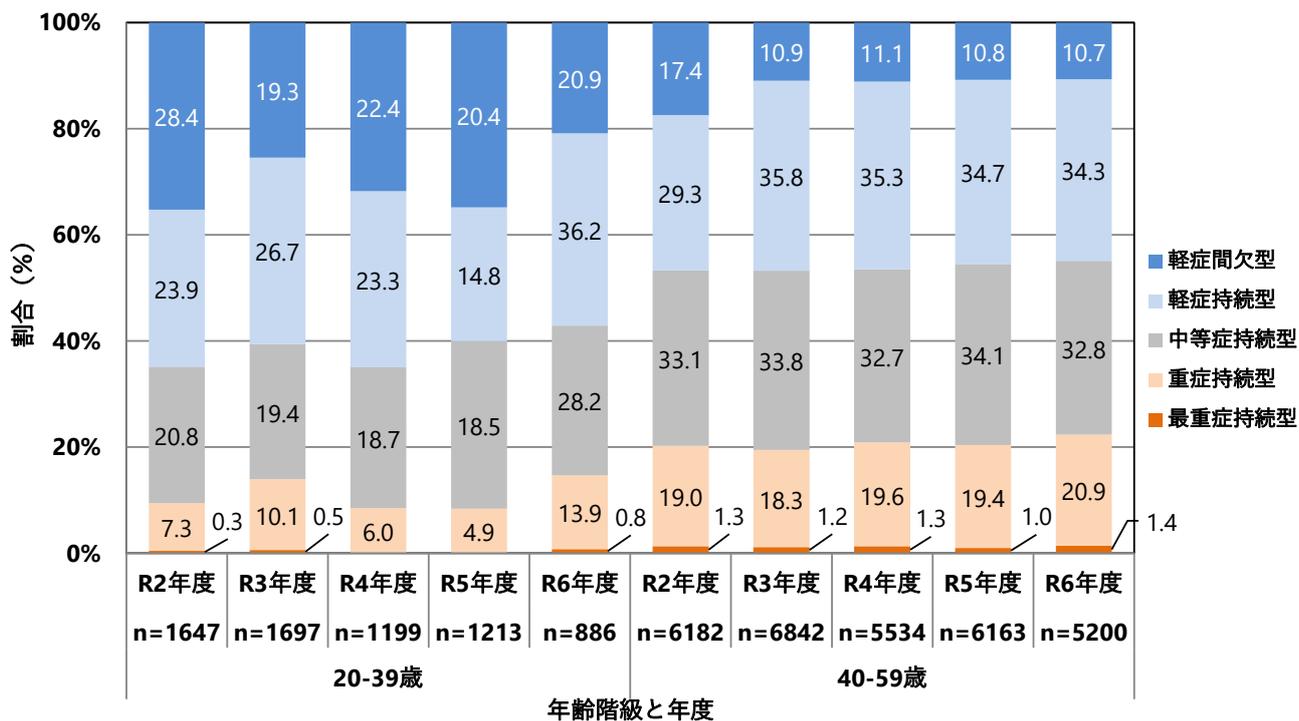
<女性>



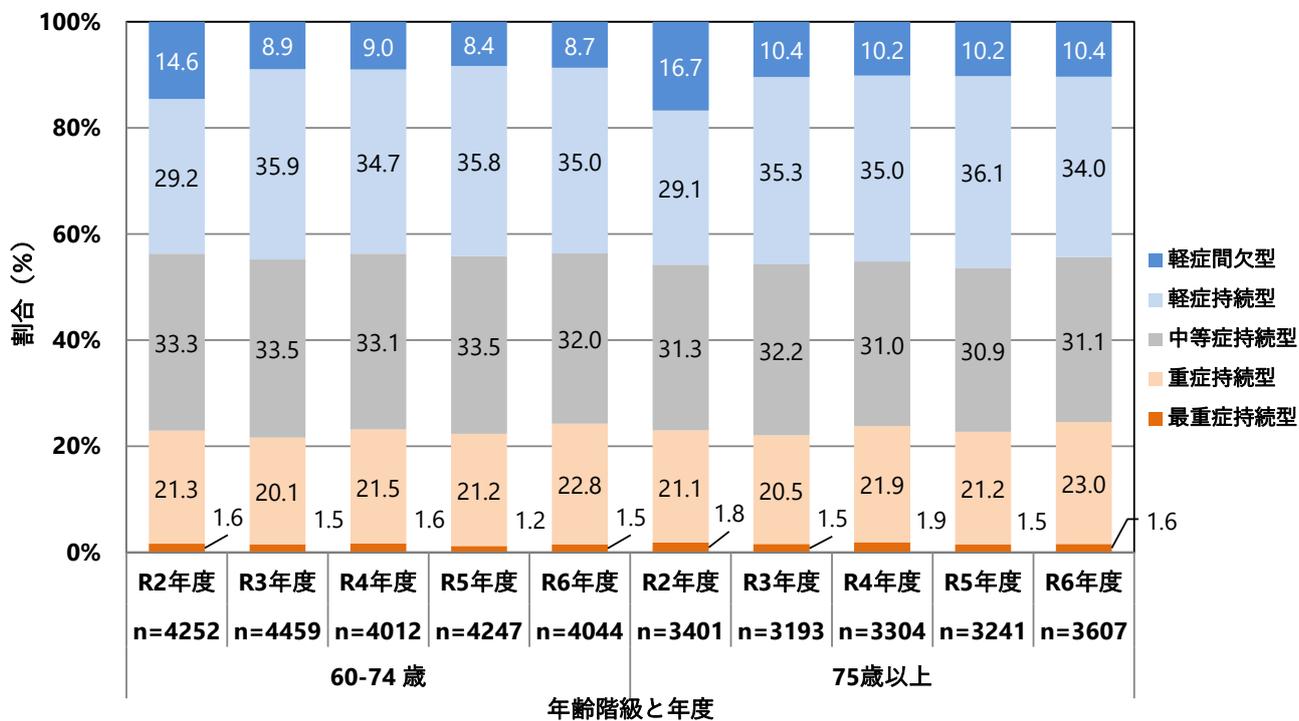
<女性>



<女性>



<女性>



3 喫煙

(1) 過去の喫煙経験

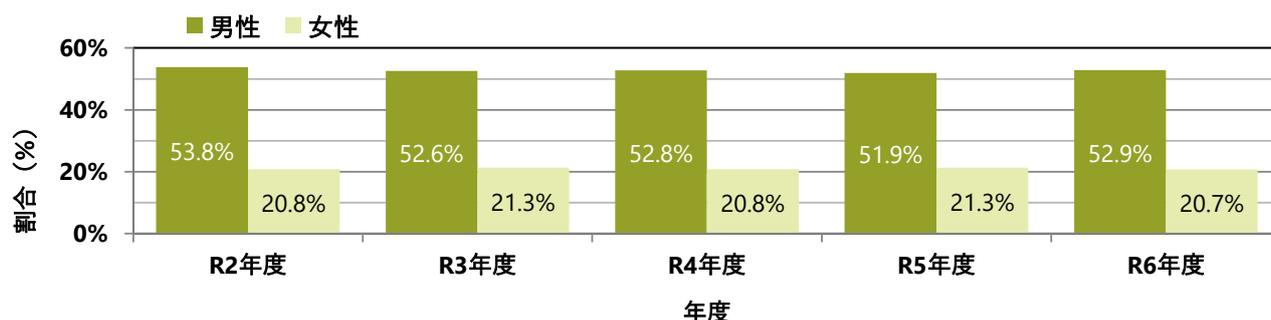
a 全体

過去に喫煙経験がある患者の割合の年度推移は、下表のとおりである。

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
喫煙経験あり	32.0%	31.9%	31.4%	31.6%	31.2%

b 男女別

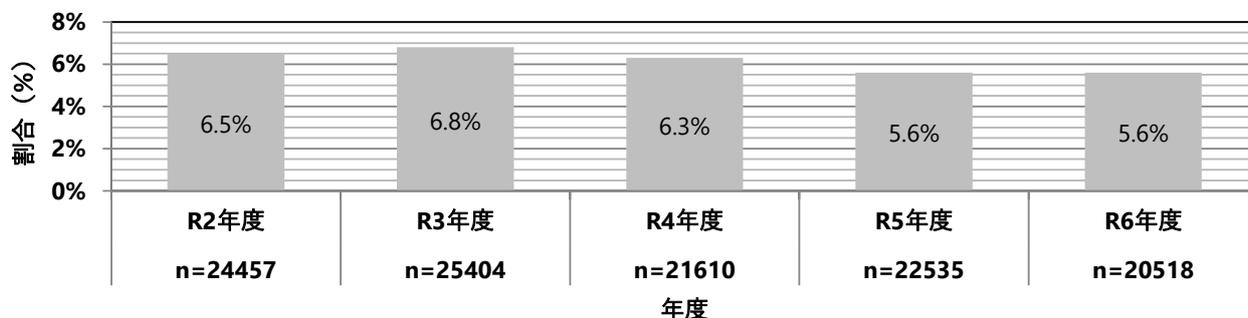
過去に喫煙経験がある患者の割合を男女別にみると、下図のとおり推移している。



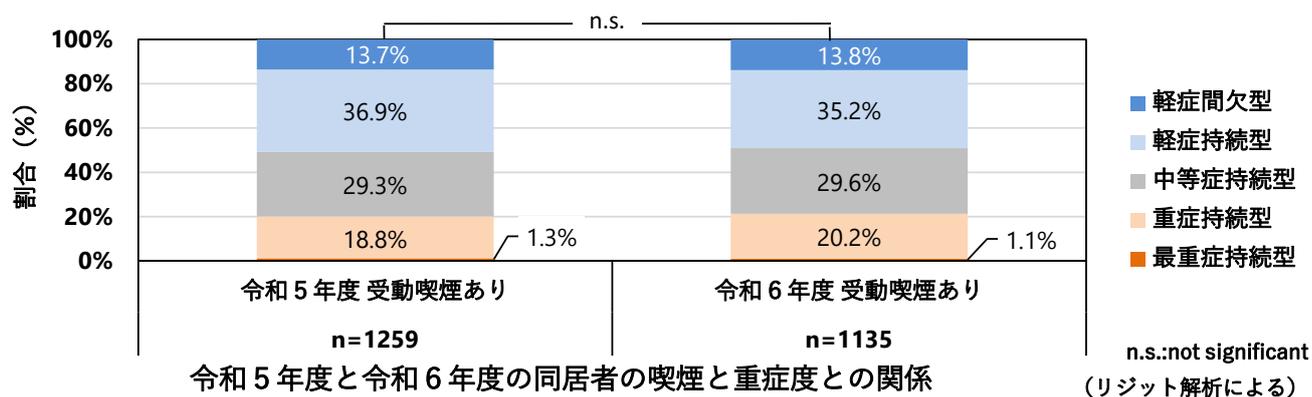
(2) 受動喫煙

a 同居者の喫煙（主治医診療報告書より）

患者の同居者が喫煙している割合の年度推移は、下図のとおりである。

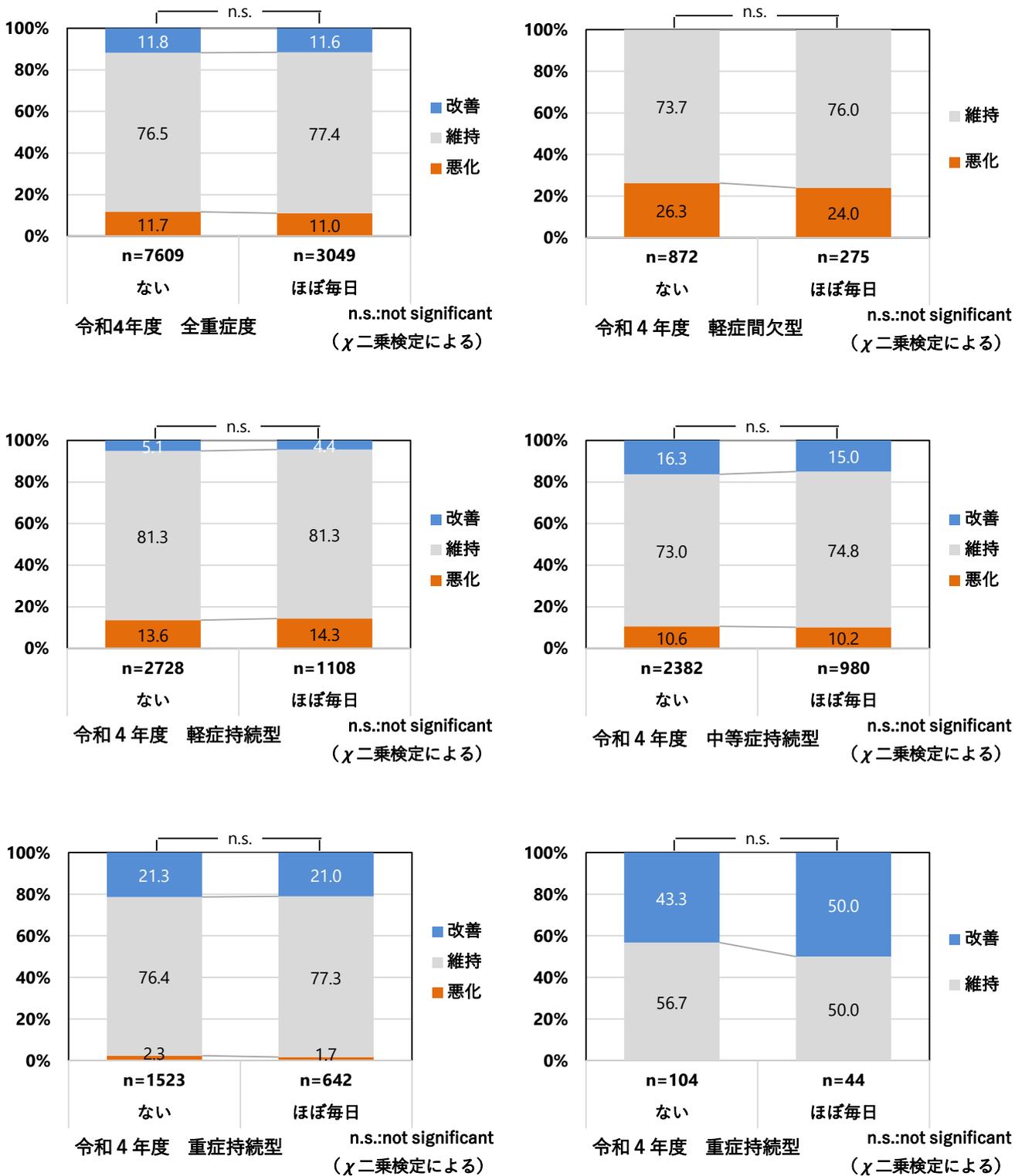


令和5年度と令和6年度のデータにおいて、同居者が喫煙している患者の重症度割合を比較したところ、有意差は認められなかった。



b 同一患者における重症度の変化と受動喫煙の関係（令和4年度と令和6年度の比較）

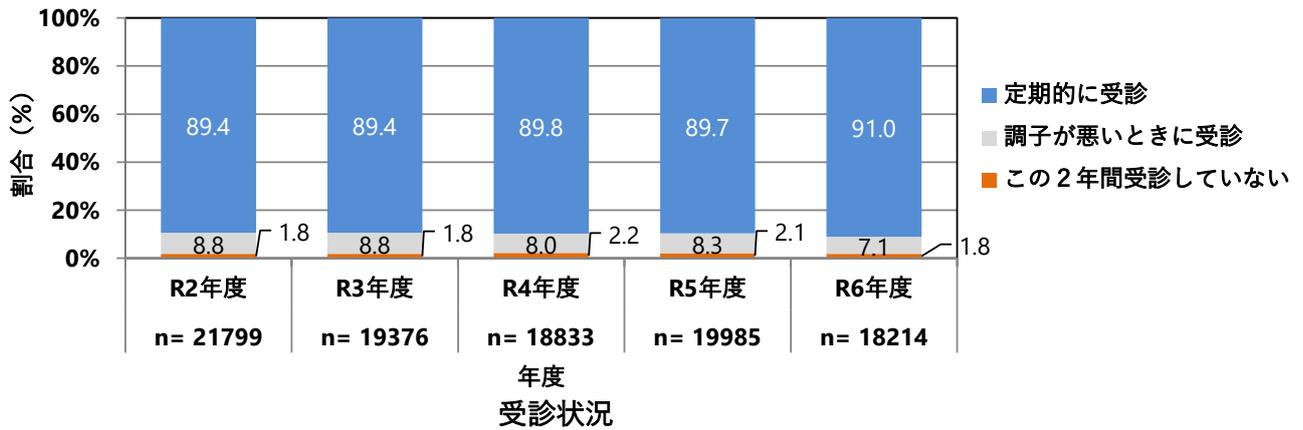
令和4年度と令和6年度のデータにおいて、同一患者の重症度の変化と受動喫煙の関係を、令和4年度の重症度別に比較したところ、すべての重症度で有意差は認められなかった。



重症度の変化と受動喫煙の関係（令和4年度と令和6年度の比較）

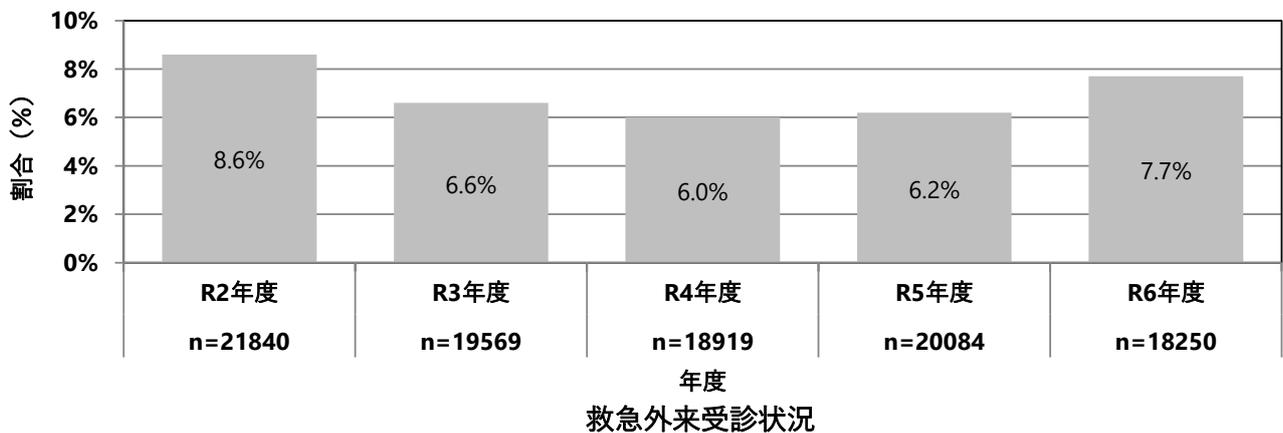
4 受診状況

ぜん息での医療機関への受診頻度（直近2年間）の割合の年度推移は、下図のとおりである。

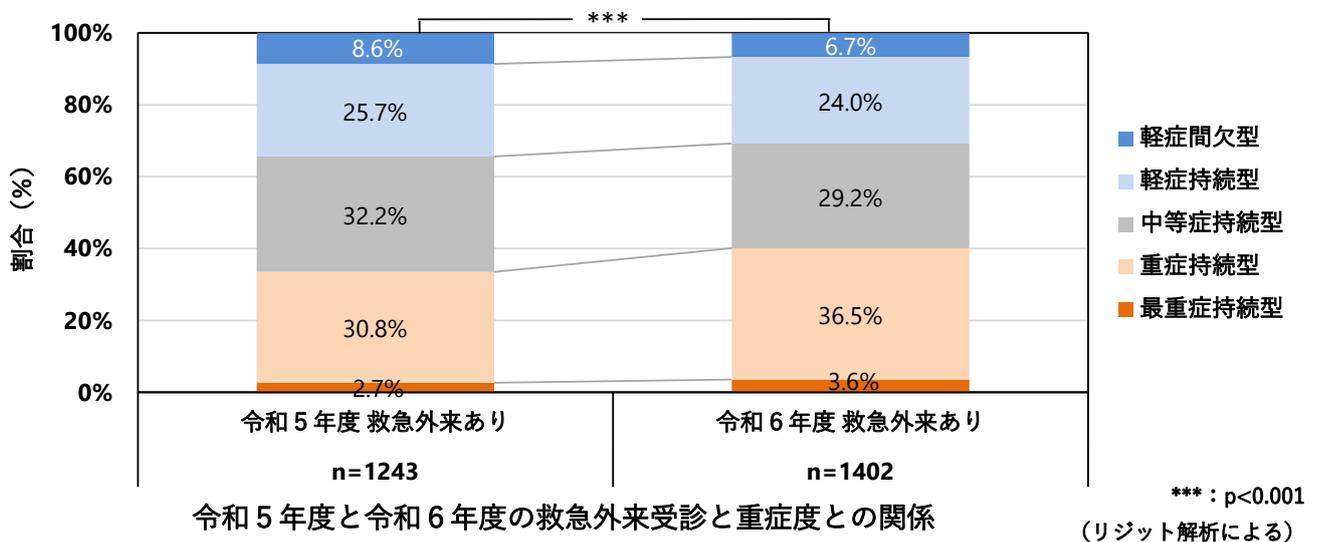


5 救急外来受診状況

ぜん息の発作での救急外来受診あり（直近2年間）の割合は、下図のとおり推移している。

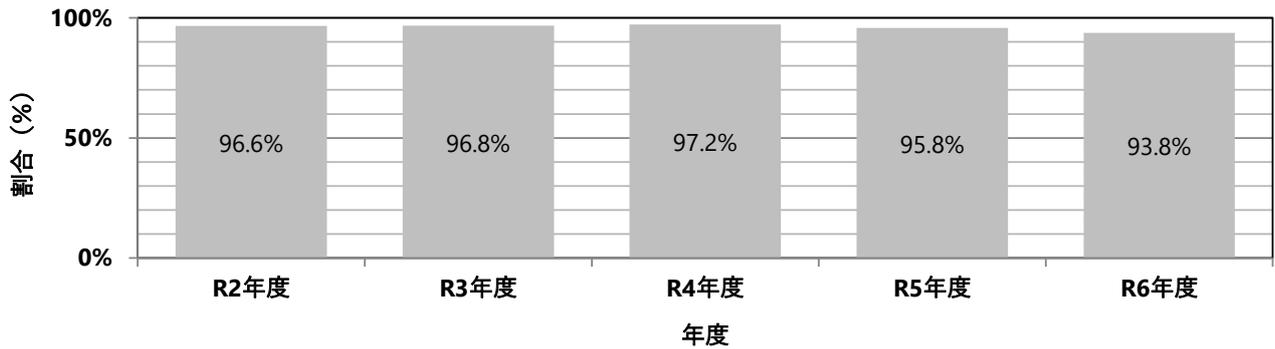


令和5年度と令和6年度のデータにおいて、救急外来受診あり（直近2年間）の患者の重症度割合を比較したところ、令和6年度は令和5年度と比較して、「重症持続型」及び「最重症持続型」の割合が有意に高かった。

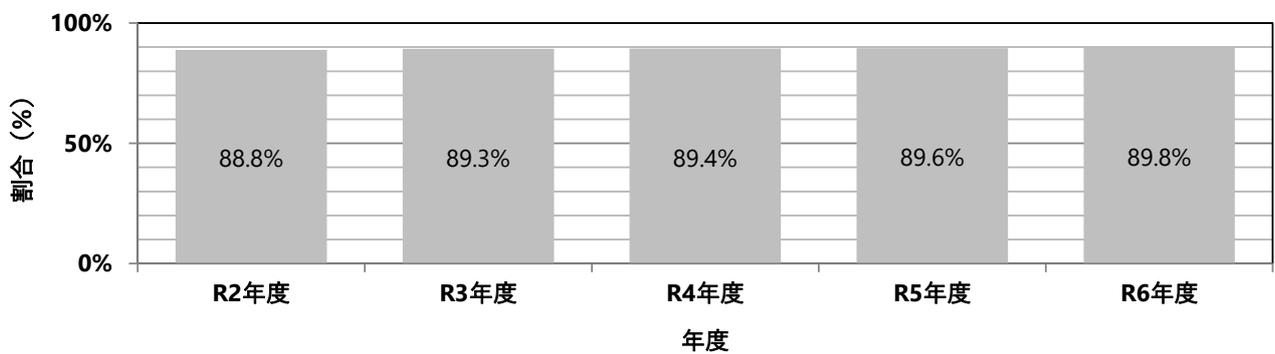


6 治療薬（吸入ステロイド薬）

ぜん息の長期管理薬である吸入ステロイド薬の使用状況の年度推移は、下図のとおりである。



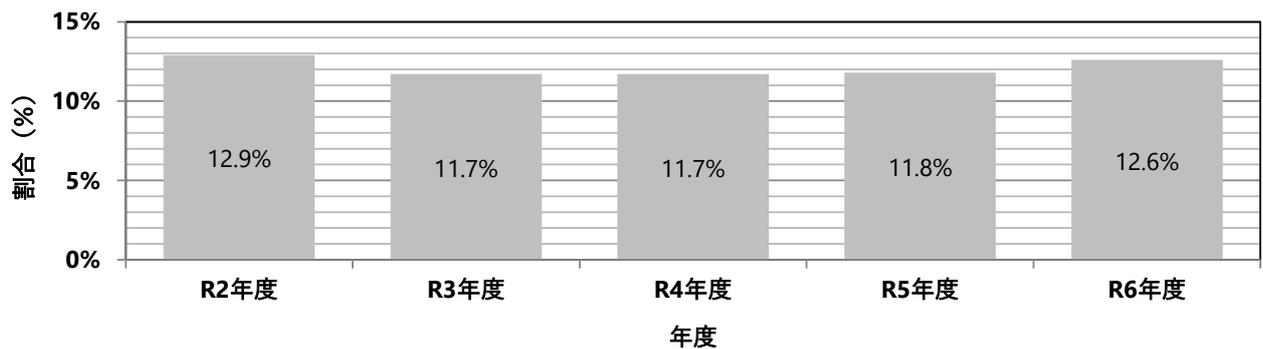
15歳以下で軽症持続型以上の患者の吸入ステロイド使用状況推移



16歳以上の患者の吸入ステロイド使用状況推移

7 呼吸機能検査実施率

呼吸機能検査実施率の年度推移は、下図のとおりである。



呼吸機能検査実施率の推移